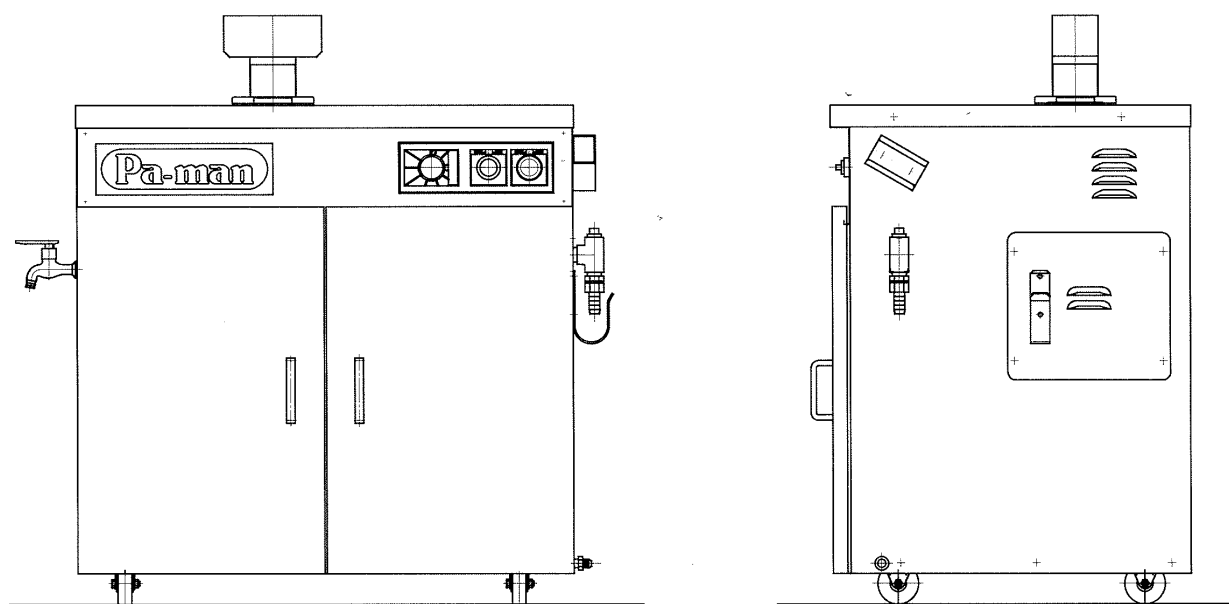


取扱説明書

PH-30E-2

温水高压洗浄機



取扱説明書が現物と異なる場合は、販売会社まで請求してください。

⚠ 警告

製品を使用する前に取扱説明書を注意深く読み、よく理解してからご使用して下さい。
この取扱説明書はいつでも使用できるように大切に保管してください。

(株) パーマンコーポレーション

T01200610

ま え が き

このたびは 温水高圧洗浄機 をお買い上げ頂きましてありがとうございます。

本機をご使用になる前にこの取扱説明書を注意深く読み、よく理解してからご使用下さい。

取扱説明書の中の注意事項及び使用方法等をよく読んでご使用頂かないと、十分に能力を発揮できないばかりか、洗浄物に傷をつけたり人身事故につながりますので充分理解した上で、正しくご使用下さい。お買い上げの製品や取扱説明書の内容についてご質問がある場合は、お買い上げ頂きました販売会社までお問い合わせ下さい。

尚、取扱説明書あるいは警告ラベル等は大切に ご使用下さい。万一紛失・汚損された場合には速やかに購入して頂き、正しく保管又は貼付して下さい。



警 告

この取扱説明書では、「危険」「警告」「注意」について次のような定義と警告表示を使用しています。

警告表示は安全作業のために重要な事柄です。

人身事故や財物損害防止のために重要な事柄が記載されていますので、必ずよく理解してからご使用下さい。



危険・・ 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷及び火災等重大な物的損害を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。



警告・・ 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷及び火災等重大な物的損害を負う可能性が想定される場合。



注意・・ 取扱いを誤った場合に、使用者が損害を負う危険が想定される場合及び物的損害のみの発生が想定される場合。

危険・警告・注意事項

	項 目	危険	警告	注意	ページ
1	本体に必ずアース線を接続すること	○			1
2	ガソリン、シンナーは絶対禁止（指定燃料使用）	○			1
3	取扱説明書をよく読み、理解した上で使用すること		○		表紙
4	素足のままで洗浄作業をしないこと（ゴム長靴の着用）		○		1
5	洗浄ガンは人に向けないこと		○		2
6	ガンが飛ばされて傷害の起きる可能性あり		○		2
7	排気筒の周辺は高温になります		○		2
8	本機が転倒しないよう設置すること			○	9
9	付近に可燃物が無く、火災防止上安全な場所へ設置すること			○	9
10	密閉した室内で使用しないこと			○	9
11	排気筒を設置する時は設置基準に従って取り付けること			○	9
12	本機は、雨や雪等が直接かかる場所への設置は避けて下さい。 缶体内部に水分が入りますと、缶体炉底に穴があき、火災の原因になる可能性があります			○	9
13	電源元に漏電遮断器を付けること			○	9
14	感震装置を電源に付けること			○	9
15	電源は専用電源を使用すること（タコ足配線の禁止）			○	9
16	電源コードを踏まないこと（車など重量物で）			○	9
17	缶体（温水器）の空焚きをしないこと			○	9
18	燃料タンクはメーカー指定品を使用すること			○	9
19	本機を無断で改造しないこと			○	9
20	洗浄ガンの金属部分は高温になるので注意すること			○	11
21	本体の外板及びドアを開けたまま運転しないこと			○	11
22	給湯口（蛇口）より高温水がでます			○	11
23	給油後は必ず運転を止めること			○	12
24	給油口はふたを確実に締めること			○	12
25	燃料タンクや油送管の接合部などから油漏れが無いかよく確認すること			○	12
26	洗浄機内部を洗浄したり水が入らないようにすること			○	12
27	雷雨時は落雷の恐れがありますので屋外で作業をしないこと			○	12
28	運転中、停電又電源ランプが外れモーターが止まった時は必ず バーナースイッチ、ポンプスイッチを切ること			○	12

	項 目		警告	注意	ページ
29	故障、破損した場合は使用しないこと（不完全な修理は危険です）			○	12
30	本機の給湯水は飲用などに用いないこと			○	12
31	洗剤はメーカー指定のものを正しく使用すること ＊目や手についたときはすぐに洗い流して下さい			○	12
32	ストップレバーを閉じた状態で3分以上運転しないで下さい			○	12
33	保守点検の実施			○	13
34	点検する際は水道の蛇口を閉じて下さい			○	13
35	点検する際は、電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認した上で実施して下さい			○	13
36	故障の処置をする際は、電源を切り給水を止め安全を充分確認した上で行って下さい			○	14

目 次

1. 使用目的	1
2. 危険・警告事項	1・2
1) 危険・警告事項	1・2
2) 警告ラベルの貼付位置及び内容	3
3. 構造及び各部の名称	
1) 作動原理	4
2) 構 造 図	5
3) 配管系統図	6
4) 配 線 図	7
5) 結 線 図	7
6) 安全装置	8
7) 安全バルブ	8
4. 使用方法及び使用上の注意	
1) 設置上の注意	9
2) 配線方法	9
3) 使用前の注意	9～11
4) 始 動	11
5) 停 止	11
6) 運転の注意	12
7) 凍結防止対策	12
5. 定期点検	13
6. 故障点診断	14～15
7. 仕 様 書	16

1 使用目的

本機は自動車整備関係をはじめ、各種産業用機械等の洗浄に用いるための洗浄機です。

2 危険・警告事項

この洗浄機をご使用頂く上で、人身事故や火災等の物的損害を防止するための重要な事柄が記載されていますので、必ずよく読み、よく理解してから使用して下さい。

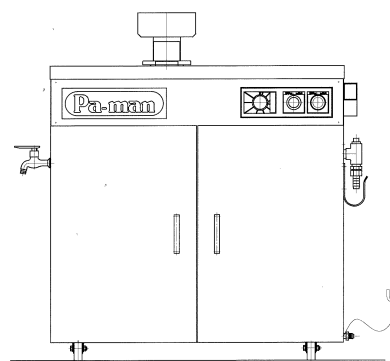
1) 危険・警告事項



危険

《感電の危険性あり》

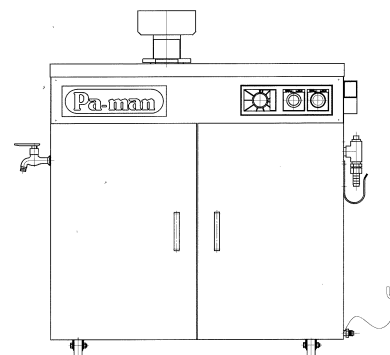
- 必ずアース線を接続すること



危険

《火災発生の恐れあり》

- ガソリン・シンナーは絶対禁止
(指定燃料使用)



警告

《漏電時に感電の危険性あり》

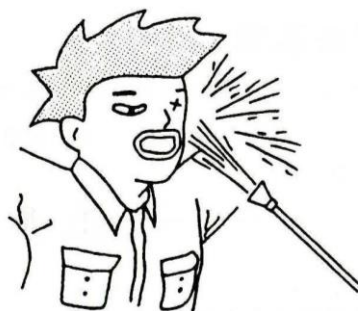
- 素足のままで洗浄作業を
しないこと (ゴム長靴の着用)



⚠ 警 告

《スプレーは高圧ですので皮膚に当たると傷害の可能性あり》

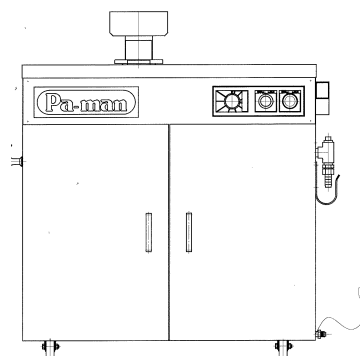
- 洗淨ガンを人に向けないこと



⚠ 警 告

《洗淨ガンは反動があるので確実に握ること》

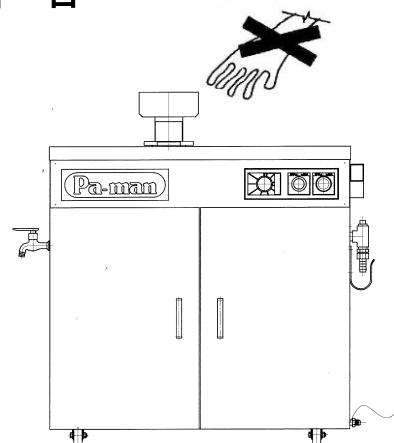
- ガンが飛ばされて傷害の起きる可能性あり



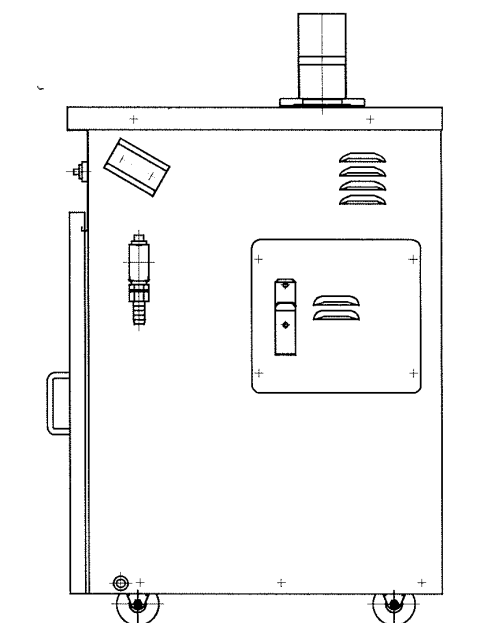
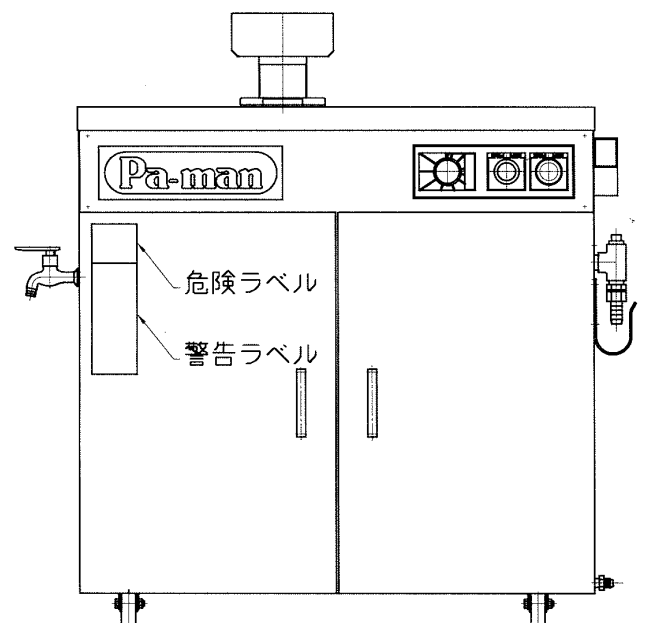
⚠ 警 告

《火傷の恐れあり》

- 排気筒の周辺は高温になります



2) 警告ラベルの貼付位置及び内容



危険ラベル(危険事項)



警告ラベル(警告事項)



3 構造及び各部の名称

1) 作動原理

本機はモーターを回転させ、ポンプを駆動し、白灯油を燃料とした貯湯式缶体（温水器）で加熱された温水を洗浄ガンの先端から噴射する洗浄機です。

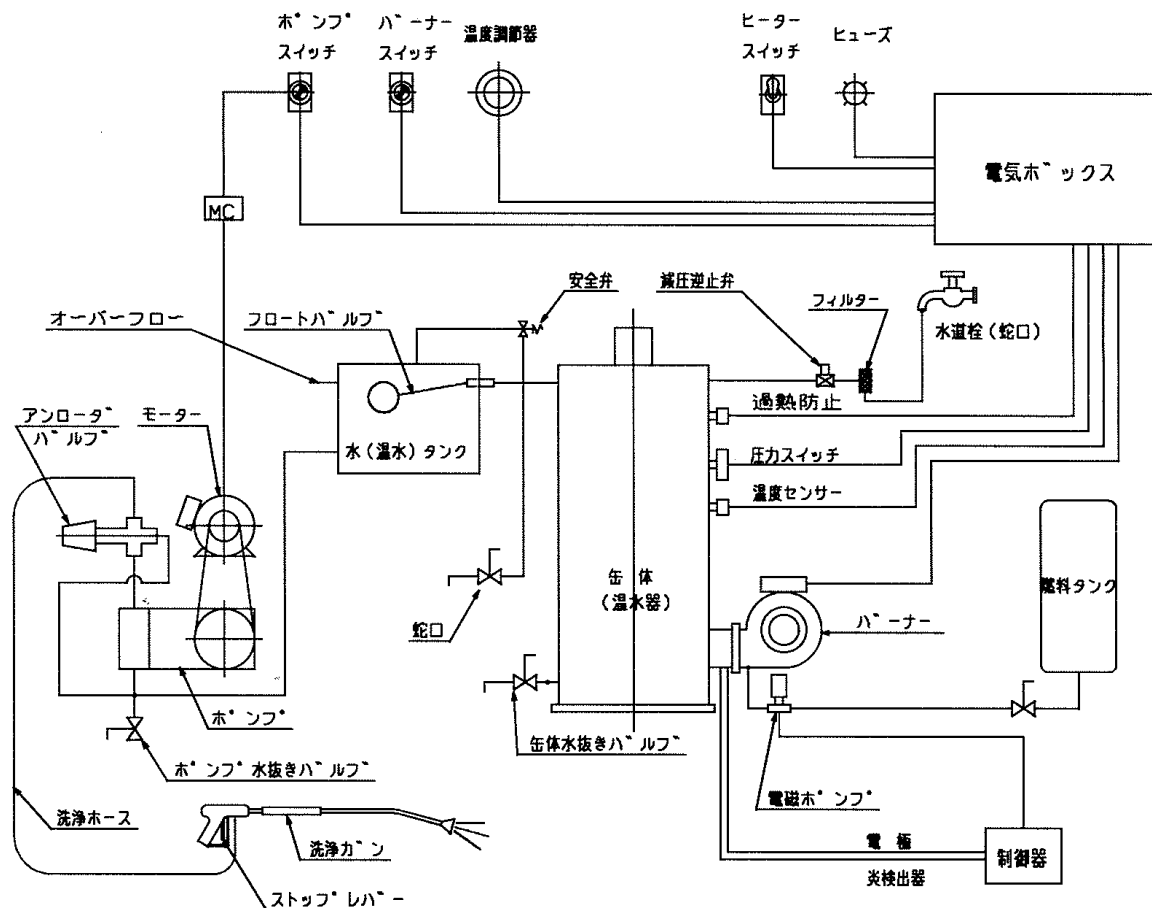
● ポンプ部の運転

ポンプスイッチを「ON」にすると、モーターが回転し、ポンプを駆動します。ポンプの給水側は缶体（開放タンク）に接続されています。缶体で加熱された温水が、ポンプ、水(温水)タンク、アンローダバルブ（安全バルブ）、洗浄ホースを経て洗浄ガンの先端にあるノズルから、所定の圧力で噴射されます。洗浄ガンは、ストップ機構が付いていますので、ストップレバーを握ると噴射され、ストップレバーを開放すると噴射は止まります。

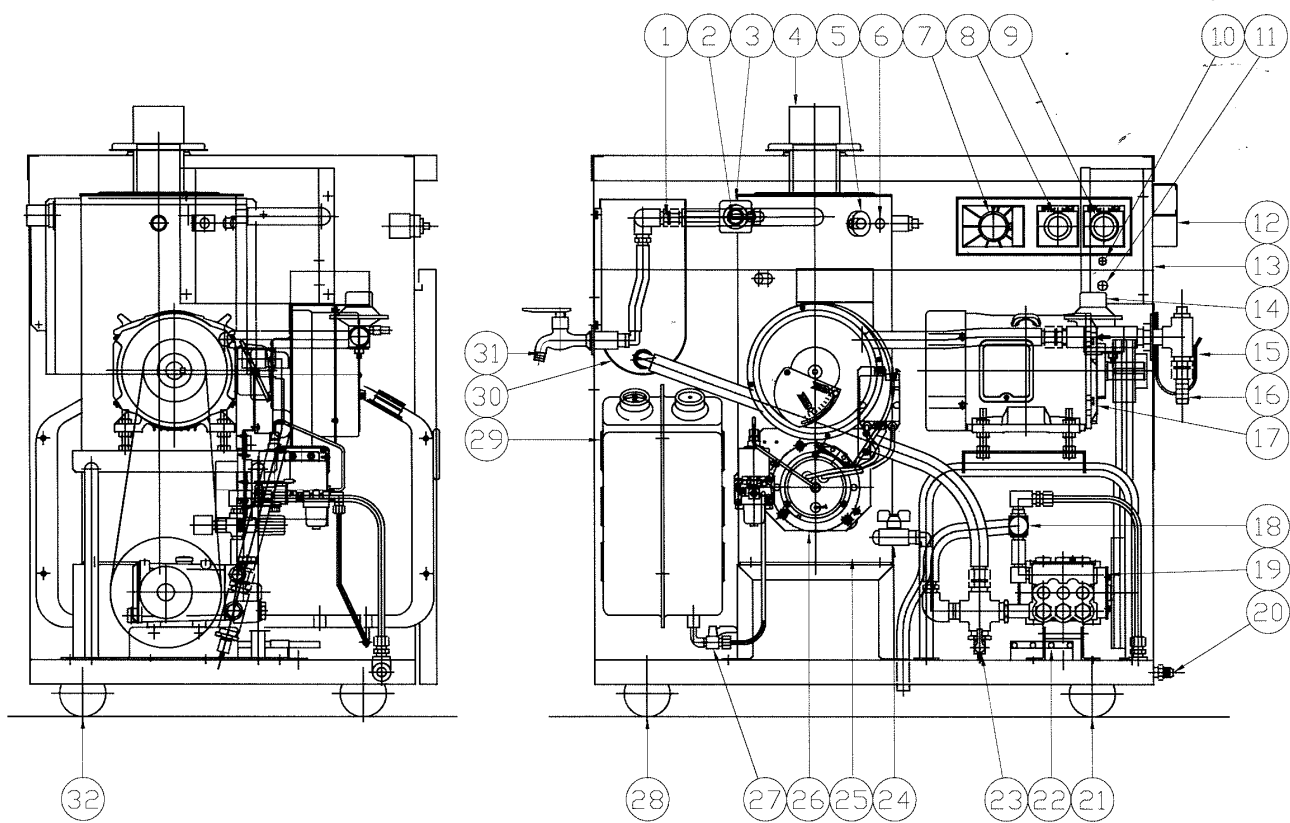
● 缶体（温水器）の点火

水道栓から給水された水は、水(温水)タンクの水は、フロートバルブの作用で一定水量に保たれます。バーナースイッチを「ON」にしますと、燃料ポンプが動作して燃料タンクからバーナーに燃料が送られ、自動点火装置により、点火され缶体の水を加熱します。温度調節器の設定値に達しますと自動的に消火します。

● 系 統 図



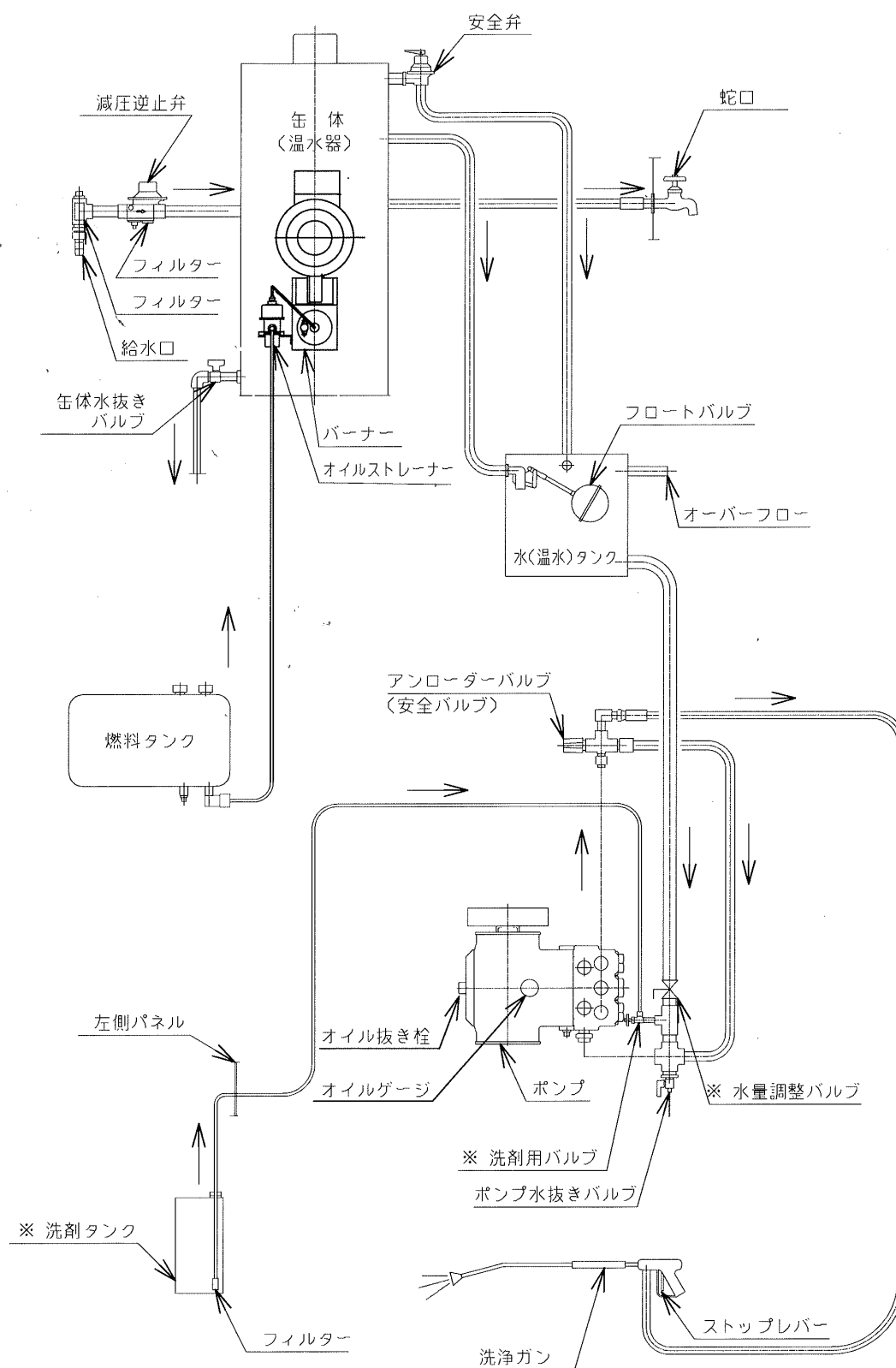
2) 構造図



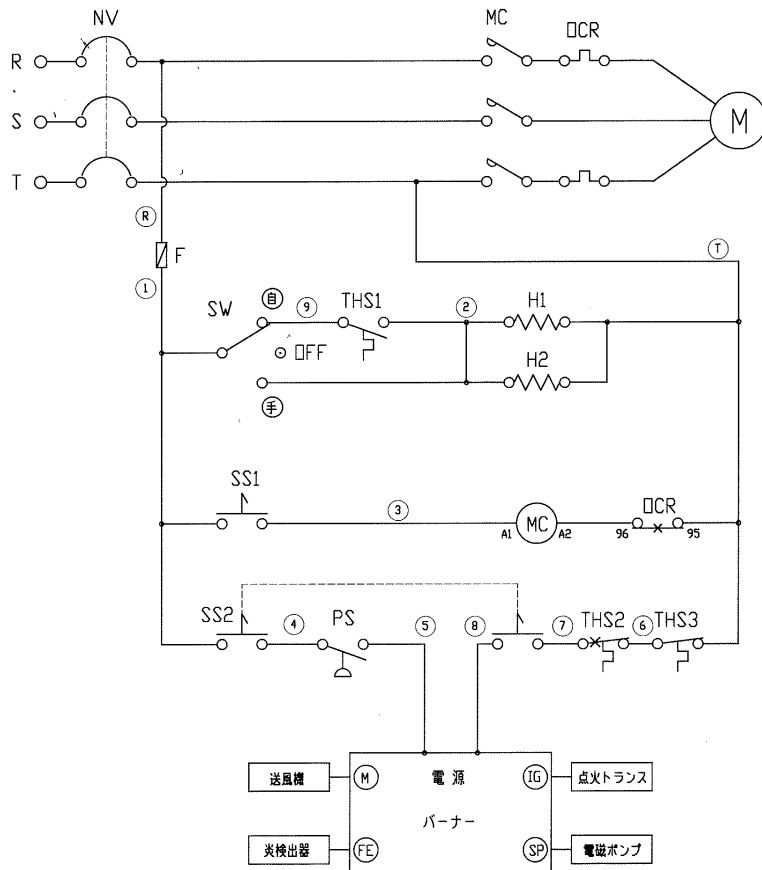
品番	名 称	品番	名 称	品番	名 称
1	ヒーターランプ	12	ガン掛け	23	ポンプ水抜きバルブ
2	バーナーランプ	13	電気ボックス	24	缶体水抜きバルブ
3	安全弁	14	減圧逆止弁	25	缶体(ボイラー)
4	排気筒	15	ホース掛け	26	バーナー
5	圧力スイッチ	16	給水口	27	燃料コック
6	過熱防止装置	17	モーター	28	自在車輪ブレーキ付
7	温度調節器	18	アンローダバルブ	29	燃料タンク
8	バーナースイッチ	19	ポンプ	30	水(温水)タンク
9	ポンプスイッチ	20	吐出口	31	蛇口
10	ヒータースイッチ	21	固定車輪	32	自在車輪
11	ヒューズ	22	保温ヒーター		

3) 配管系統図

(※オプション含む)

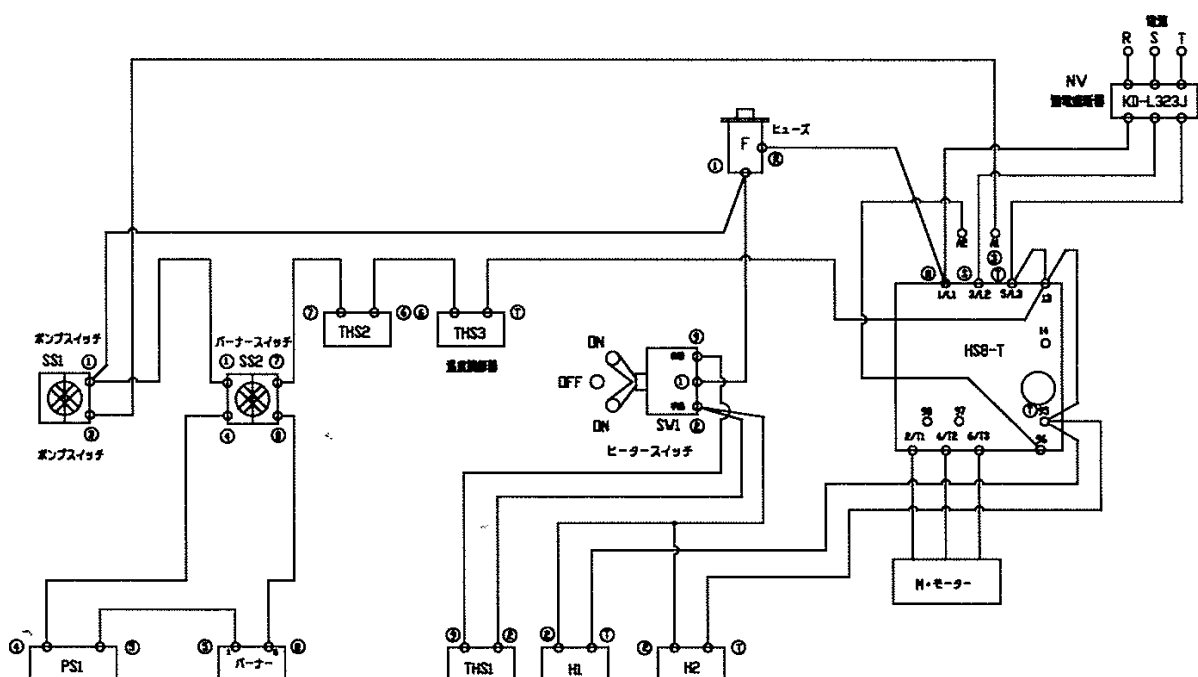


4) 配線図



品番	名 称
M	モーター（電動機）
F	ヒューズ
SW	保温ヒータースイッチ
H1	保温ヒーター（W型）
H2	ターミナルヒーター
SS1	ポンプスイッチ
MC	電磁開閉器
SS2	バーナースwitch
PS	圧力スイッチ
THS1	温度調節器
THS2	過熱防止装置
THS3	温度調節器

5) 結線図



6) 安全装置

a) 漏電遮断器

接地との併用により電路に地路が生じた時に作動し、火災、又感電を防止する。

b) ヒューズ (3A以外、使用禁止)

過電流が流れた場合、電気回路を遮断し保護する。

c) 過負荷保護装置 (電磁開閉器)

モーターが過負荷になり、過電流がある時間以上流れると、サーマルリレーが作動し、モーターの焼損を防止する。

d) 安全バルブ (アンローダバルブ)

配管内の圧力が設定値以上に上昇すると、アンローダバルブが作動して、過度な圧力の上昇を防ぎます。

e) 空焚き防止装置 (圧力スイッチ)

缶体を保護する装置で、缶体内に水が規定量入っていないと、バーナーの点火を防ぎ、又点火中の時は消火して缶体の空焚きを防止します。

f) 炎監視装置 (炎検出器)

燃焼が完全に開始されない時や、燃料切れ、失火、異常燃焼の場合に感知し、バーナーを停止させる。

g) 過熱防止装置

缶体の二重安全装置で空焚き、又は異常燃焼した場合、缶体の胴体温度感知でバーナーを停止させます。(手動復帰)

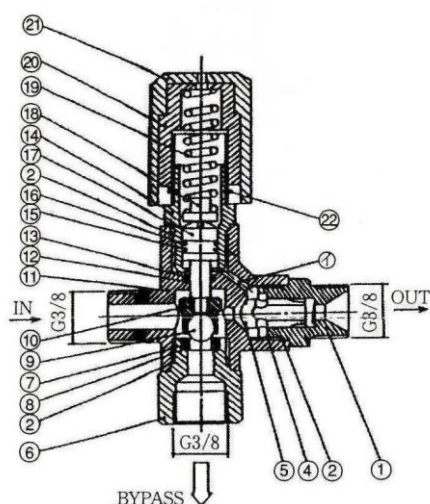
7) 安全バルブ (アンローダバルブ)

作動原理

②①のハンドルを締めることにより、噴出圧力を設定する。IN方向より圧力が加わり、設定圧力以上になると、直動形リリーフ弁を押し上げて余水することになる。ノズルを閉じた場合、チャッキ弁が閉じ高压水が①の通路を通してピストンを押し上げたまま保持することが可能となり、全余水運転を行う。又、ノズルを開いた場合アンローダ内の圧力が下がり、ピストンが降りて通常運転となります。

- ロックナット②②を外したり、スプリング①⑨を変えない様にして下さい。
- 運転中アンローダと、洗浄ガン (ノズル) の間で水漏れが無い事を確認して下さい。水漏れがあれば、アンローダの破損の原因となります。

● 各部の名称



品番	名 称		
1	吐水アダプタ	13	Oリング
2	Oリング	14	ピストンハウジング
4	バルブ	15	Oリング
5	Oリング	16	バックリング
6	バイパスフィッティング	17	ピストン
7	Oリング	18	スプリングシート
8	シート	19	スプリング
9	ボール	20	ハンドホイール
10	ボールハウジング	21	ハンドル
11	バルブハウジング	22	ロックナット
12	バックリング		

4 使用方法及び使用上の注意 1) 設置上の注意

1) 設置上の注意



注 意

- 本体が、転倒しないよう設置すること。
- 付近に可燃物が無く、火災予防上安全な場所へ設置すること。
- 密閉した室内で使用しないこと。
- 排気筒を設置する時は、設置基準に従って取付けること。
- 本機は、雨や雪等が直接かかる場所への設置は避けて下さい。

缶体内部に水分が入りますと、缶体炉底に穴があき、火災の原因になる可能性があります

- a) 本機は水はけの良い場所に水平に置いて下さい。
- b) 設置の際はブレーキ付き車輪のブレーキ止めを掛け、機械が移動しないようにして下さい。
- c) ガソリン等の可燃物が置かれている様な建物や有毒ガスが発生する場所等では本機を使用しないで下さい。
- d) 機械に直接水（雨を含む）のかからない場所を選定して下さい。
- e) 屋外設置で雨、雪等が直接かかる場合は煙突防水カバーセット（排気筒、防水カバー）オプションを取付けて下さい。
- f) 給水設備が適当であるかを確認して下さい。
水圧 0.1 ～ 0.5 MPa 水量 は 15 L/min 以上、
- g) 屋内で使用する場合は、吸排気口ファンを取付けて下さい。（排気には充分注意して下さい。）
- h) 缶体（温水器）はステンレス製ですが、水質が酸・アルカリその他化学的悪影響を及ぼす水は、上水道であっても使用しないで下さい。

2) 配線方法（下記の内容は電力会社指定の工事店に依頼して下さい。）



注 意

- 電源元には漏電遮断器を付けること。
- 感震装置を電源に付けること。
- 電源は専用電源を使用すること。（タコ足配線の禁止）
- 電源コードを車輪等で踏まないこと。

- a) 電源及びサイクルが電源と一致するか確認して下さい。
- b) 6 mの電源コードが付いていますが近くに電源が無い場合は電力会社に依頼して下さい。
（電圧降下に充分注意して下さい。）
- c) 電気容量は三相 200V で、STR-2RVK-2 は 10A 以上、STR-3RVK-2 は 15A 以上、
の電源設備を用意して下さい。
- d) 機械から出ている電源コードを確実に電源に接続して下さい。電源コードの中の緑線はアース線です。アース端子は必ず接続して下さい。
- e) ポンプの回転方向を確認して下さい。

3) 使用前の注意



注 意

- 缶体（温水器）の空焚きをしないこと。
- 燃料タンクはメーカー指定品を使用すること。
- 本機を無断で改造しないこと。

- a) ポンプ及び缶体水抜きバルブを閉じ、水道の蛇口より給水ホースを接続し、水道の蛇口を開き給水を行って下さい。
- b) 洗浄ホースを本機接続部（吐出部）に接続して下さい。
- c) ポンプ内の油量を確認する。
ポンプ上部のオイルゲージ（キャップ）を抜き確認する。
- d) 燃料タンクに、JIS 1 号灯油（白灯油）を入れて下さい。
ガソリン、シンナー、その他揮発性燃料禁止
- e) 温水温度は始動前に希望する設定温度（30℃～80℃）にセットする。
※設定温度は低いほど缶体の耐久性は上ります。
- f) 洗剤を使用する場合は、洗剤量を確認して下さい。（オプション）

● ポンプ

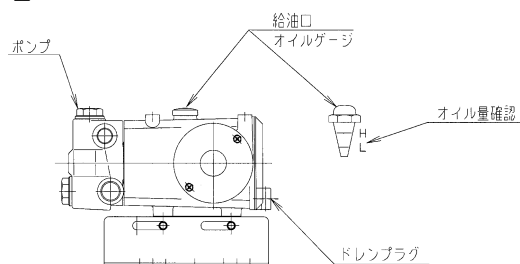
オイルの確認は、オイルゲージの給油範囲にある事を確認して下さい。
（補給は同オイルを使用して下さい。）

●オイルの劣化

汚れ、白濁が見られたら全量オイルを交換して下さい。（ポンプ後部のプラグ又オイル栓を抜く。）

- オイルの交換は、第1回目ユーザー納入後3ヵ月或は、300時間、第2回目以降は6ヵ月或は、600時間で交換して下さい。

- オイル量 約 0.4 L



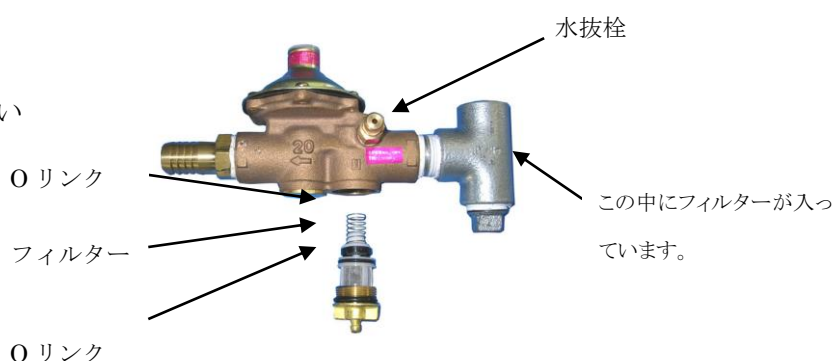
- 使用オイルは下記又、同等品を使用して下さい。

グレード	出光	エネオス	コスモ
VG 100 (冬季)	ダフニー メカニックオイル 100	FBK オイル RO 100	コスモニュー マイティスーパ 100
VG150	ダフニー メカニックオイル 150	FBK オイル RO 150	コスモニュー マイティスーパ 150

※自動車用エンジンオイルを使用の場合 SAE#30(冬)、#40(夏)を使用して下さい。

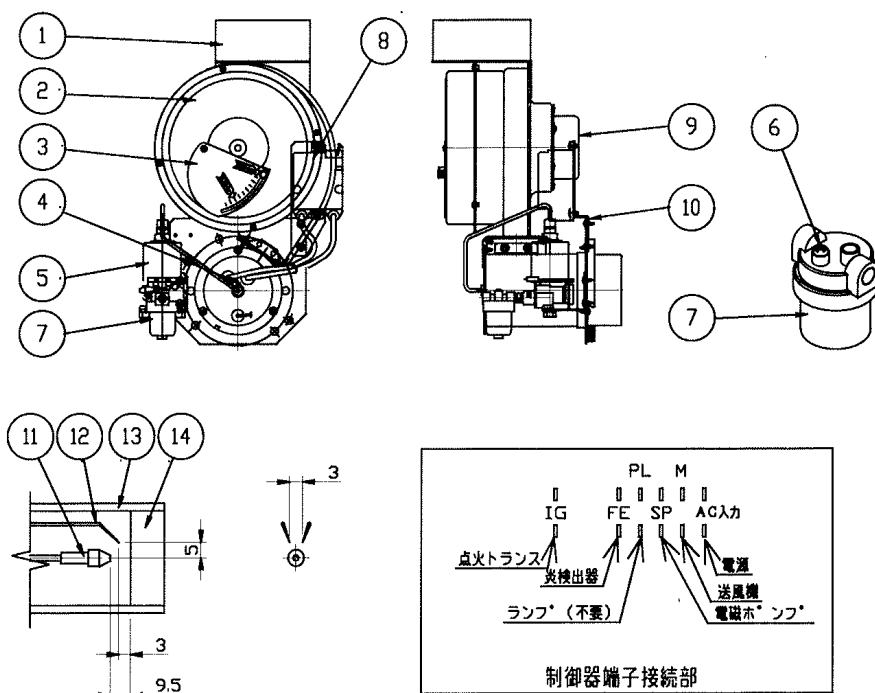
●フィルター、減圧逆止弁

2箇所のフィルターを
定期的に清掃してください



●バーナー

- 燃料は白灯油（JIS1 号灯油）を使用し、ガソリン等は絶対に使用しないで下さい。
- 風量調整ダンパー開度は、使用する周波数（50Hz、60Hz）に合っているか確認して下さい。
- 初めての点火又は燃料が空になった場合、オイルストレーナーの空気抜きネジを反時計方向に回し緩めて下さい。エア抜き終了後、締めて下さい。
- 燃焼安全装置付きなので、炎検知センサーが汚れると燃焼不良をおこす事があります。万一燃焼不良を起こした場合、販売店に連絡して下さい。
- 制御器部に水等をかけないで下さい。万一作動不良を起こした場合、販売店に連絡して下さい。
- 気圧により、ススの発生が増加する事があります。



品番	名 称
1	制 御 器
2	送 風 機
3	風量調整ダンパー
4	炎検知センサー
5	電磁ポンプ
6	空気抜きネジ
7	ストレーナー
8	点火トランス
9	ファンモーター
10	バーナーフランジ
11	ノ ズ ル
12	電 極 棒
13	ブローチューブ
14	旋 回 羽 根

4) 始 動



注 意

- 洗淨ガンの金属部分は高温になりますので注意して下さい。
- 本体の外板及びドアを開けたまま運転しないこと。
- 給湯口（蛇口）より高温水がでます。

- 水道の蛇口（給水部）を開けて下さい。
- 電源を入れて下さい。
- 水タンクの水がフロートバルブで止まるまで、待って下さい。（約3～4分）
- 温度調節用ダイヤルを希望される温度にセットして下さい。（30℃～80℃）
缶体に水が充満していないと、バーナーは作動しません。
- バーナースイッチを「ON」にして下さい。
- 洗淨ガンを持ち、ストップレバーを握ってからポンプスイッチを入れて下さい。
高圧温水が噴射します。
- ストップレバーは、必要以上に操作しないで下さい。
- 給湯口（蛇口）からお湯を取り出したい場合、a～eの順序で操作し蛇口を開いて下さい。

5) 停 止

- a) 温度調節用ダイヤルを「0」にする。
- b) バーナースイッチを「OFF」にしてください。
- c) ポンプスイッチを「OFF」にしてください。
洗浄ホース内の残圧を抜く為に、ストップレバーを握ってください。
- d) 水道（給水部）の蛇口を閉じて下さい。

6) 運転の注意

注 意

- 給油時は必ず運転を止めること。（電源を切ってください。）
- 給油後は蓋を確実に締めること。
- 燃料タンクや油送管の接合部などから油漏れが無いがよく確認すること。
- 洗浄機内部を洗浄したり、水が入らないようにすること。

- a) 初めて使用する時、又燃料タンクを空にした場合は、燃料補給後バーナースイッチを「ON」にして電磁ポンプのエア抜きを行ってください。10秒以内にエア抜きが完了しないと、バーナーの運転を自動的に停止します。（11ページ、バーナーのC項参照）
上記の際は、バーナースイッチを「OFF」にして、10秒後に「ON」にしてエア抜きを行ってください。
- b) 運転中、給水量が不足するとポンプの故障の原因となります。（給水量確保）
- c) 蛇口にホースを付けてお湯の取出しが出来ます。
- d) ポンプ作動中に蛇口よりお湯を取出すと、水量不足又は高温水にならない場合がありますので注意して下さい。
- e) 洗浄ガンを機械本体に向けて噴射することは絶対に避けて下さい。
- f) 洗剤を使用する際は、ポリ容器に洗剤を入れ水量調整バルブにてポンプがチャタリングを起こさない程度に調整し、洗剤バルブを開けて下さい。（オプション）
- f) 作業終了時、水量調整バルブを全開にし、洗剤バルブを閉じて下さい。
注）洗浄ホースは必ず振動する為、振動による悪影響の場所は避けて下さい。

注 意

- 雷雨時は落雷の恐れがありますので屋外での作業をしないこと。
- 運転中、停電又は電源プラグが外れモーターが止まった時は必ずバーナースイッチ、ポンプスイッチを切ること。
- 故障、破損した場合は使用しないこと。（不完全な修理は危険です）
- 本機の給湯水は飲用などに用いないこと。
- 洗剤はメーカー指定のものを正しく使用すること。
※目や手に着いた時はすぐに洗い流して下さい。又異変が生じた場合、医者にご相談して下さい。
- ストップレバーを閉じた状態で3分以上運転しないで下さい。
※ポンプの過熱による損傷と危険を避ける為。

7) 凍結防止対策

冬期の凍結対策は非常に重要です。配管等を凍結させますと破損することがありますので、下記の方法で凍結を防止し、運転再開時には充分注意して下さい。

a) 水道（給水）の蛇口を閉じて、給水ホースを本機から外して下さい。

b) ポンプ、缶体の水抜きバルブを開けて排水します。

水が出なくなった後、ポンプの空運転を5～10秒程度して下さい。

c) 接続用高圧ホースをはずし、水抜きを行って下さい。

d) 保温ヒーターを「ON」にして下さい。電源は「OFF」にしないで下さい。

* ポンプが凍結しているときは、ポンプのシリンダー部にお湯をかけ、完全に溶解してから始動させて下さい。

5 定期点検

安全にご使用して頂くために必ず定期点検を実施して下さい。（お買上げの販売会社へご相談下さい。）



注 意

- 保守点検の実施。
- 点検する際は水道の蛇口を閉じて下さい。
- 点検する際は電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認した上で実施して下さい。

点 検 期 間	点 検 項 目	点 検 要 領
毎 日	・ ポンプのオイル点検 ・ 燃料配管の油漏れ ・ 洗浄ホースの破れ、又配管部の漏れ	・ 油量及びオイルの汚れ ・ 油漏れ発生時、お買上げの販売店へ相談して下さい ・ ホース交換、配管部増し締め
3 ヲ月 毎	・ 燃料タンク内の清掃 ・ オイルストレーナーの清掃 ・ 缶体内の清掃 ・ 炎検出器の清掃	・ ドレンプラグを外し異物を取り除く （販売店へ相談して下さい） ・ オイルストレーナーの清掃 ・ 缶体水抜きバルブを開け、水を排出する （販売店へ相談して下さい） ・ やわらかい布で拭いて下さい
6 ヲ月 毎	・ 配管ストレーナーの清掃	・ ゴミ等を取り除く （販売店へ相談して下さい）
1 年 毎	・ 缶体の燃焼室の清掃 （スモーク対策）	・ お買上げの販売店へ相談して下さい
随 時	・ オイル交換	・ 600H／毎 指定のオイル

6 故障と修理

「故障かな」と思われる前にもう一度確認して下さい。異常が生じた時は、この取扱説明書をよくお読み頂き、下記の点検をした上で、それでも不具合な場合は、お買上げの販売会社へご相談下さい。



注 意

●故障の処置をする際は、電源を切り給水を止め安全を充分確認した上で行って下さい。

状 況	原 因	処 置
水(温水)タンクに 水が充満しない	①水源圧力、水量不足 ②フロートバルブ不良 ③減圧逆止弁の不良 ④配管途中のフィルターの目詰まり ⑤減圧逆止弁のフィルター目詰まり	①水量を確保する ②交換 ③交換 ④清掃 ⑤清掃
ポンプ、バーナースイッチを「ON」にしてもモーター、バーナーが始動しない	●モーター ①スイッチ不良 ②電磁開閉器のサーマルリレーが作動している ③ヒューズ切れ ④コードの断線、又結線不良	① ② ③ ④ お買上げの販売会社へ 相談して下さい
	●バーナー ①スイッチ不良 ②ヒューズ切れ ③コードの断線、又結線不良 ④圧力スイッチ不良 ⑤過熱防止装置のリセットはずれ ⑥バーナーの制御器不良 ⑦温度調節器の不良 ⑧水量不足	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ お買上げの販売会社へ 相談して下さい ⑧水量確保

洗淨ノズルより水が噴射しない、又圧力不足	①高圧ポンプ不良 ②高圧ポンプのバルブにゴミ付着、又バルブ不良 ③高圧ポンプのパッキンより水漏れ ④アンローダバルブの不良 ⑤洗淨ホース不良 ⑥配管等の緩み ⑦温水温度が高すぎる（80℃以上） ⑧洗淨ノズルのつまり、消耗 ⑨水量不足 ⑩フィルターの目詰まり	① — ② — ③ — ④ — ⑤ — ⑥ — ⑦ — ⑧ノズル清掃、又交換 ⑨水量確保 ⑩清掃
バーナーの点火不良、又温度が上らない	①燃料不足 ②燃料フィルターの目詰まり ③炎検出器のくもり ④電磁ポンプ不良 ⑤バーナーノズルの目詰まり ⑥ダンパー開度の確認 ⑦温度調節器の不良	①燃料確保 ②フィルターの清掃 ③やわらかい布で拭いて下さい ④ — ⑤ — ⑥ — ⑦ — お買上げの販売会社へ 相談して下さい
ポンプ、洗淨ガン部のチャタリング	①水量不足、又目詰まり ②ポンプの水漏れ ③アンローダバルブ不良 ④吐出部配管の水漏れ ⑤ストップガン部の水漏れ	①水量確保、又清掃 ② — ③ — ④ — ⑤ — お買上げの販売会社へ 相談して下さい

7 仕 様 書

型 式	PH-30E-2
吐 出 圧 力	9MPa
吐 出 量	約 800L/H
温 水 温 度	30℃～80℃
缶 体	ステンレス製（蓄圧式）
燃料消費量	約 4.2～5.3 L/H
使 用 燃 料	白灯油（J I S 1 号灯油）
燃料ポンプ	電磁ポンプ
燃料タンク	35L 固定式（ゲージ付）
温度調節器	30℃～80℃液体膨脹式サーモスタット
洗浄ホース	3/8*1.5M
洗 浄 ガ ン	ストップガン
ポ ン プ	三連セラミックプランジャー
電 動 機	三相 200V 2.2KW 4P
給 水 口	20A×φ16 袋タケノコ
電 気 容 量	15A
機 体 寸 法	(W) 916× (D) 665× (H) 1077 mm
機 体 質 量	約 132Kg
標 準 装 備	過負荷保護装置・空焚防止装置・炎監視装置・漏電遮断器 減圧逆止弁・安全弁・凍結防止用ヒーター（W 型 200V・200W） ストップガン・蛇口・電源差し込みプラグ・過熱防止装置 排気筒・防水カバー
オプション	洗剤タンク（10L ポリ容器） ホースリール・その他